

令和6年度第2回男女共同参画推進会議

- 1 開催日時 令和7年3月18日（火）午後2時から3時30分まで
- 2 開催場所 白井市役所東庁舎1階 多目的スペース
- 3 出席者 北川慶子会長、佐藤真弓副会長、塚原幸恵委員、増田道恵委員、
高橋祐之委員、市川温子委員、村田安彦委員、石原昌子委員、
中島京恵委員、松澤拓巳委員、高橋良多委員、鵜沼里江委員
- 4 欠席者 鈴木孝委員
- 5 事務局 市民環境経済部 今井部長
市民活動支援課 鈴木課長
市民活動支援係 宮本主任主事、玉造主事
- 6 コンサル (株) ジャパンインターナショナル総合研究所
- 7 傍聴者 0名
- 8 議題 (1) (仮称)白井市男女共同参画計画策定に係るアンケート調査
結果報告
(2) ワークショップ結果報告
(3) 来年度の策定スケジュール説明
(4) その他

○会長 皆様、こんにちは。年度末の本当にお忙しい中にわざわざお集まりいただきまして、ありがとうございます。先ほど事務局からご案内がありましたように、私たちの会議もあつという間に終わってしまいまして、いよいよ今日が最後となりました。

最後となるとは言いまでも、私たちはずっとここまで2年間ちょっと、次の計画のために調査をする、その調査に関わることを、本当に皆様方に細かく考えていただきました。そしてその調査がやっと12月に終わりました、事務局のほうでまとめてくださいましたのが、今日の議題ともなっておりますけれども、アンケート調査結果の報告書があります。それにつきまして、皆様方からまたいろいろなご意見をいただきたいと思います。最後ですのでしっかりと私たちの意見も反映させていただきましたが、さらに今度はその結果に対して皆様方のご意見を頂戴いたしたいと思います。

そして、もう私たちはいったんこれで任期が終わってしまいますけれども、ただ、新年度からの予定表もありますように、これから計画の策定に向けての作業が進んでいくということになります。ですから、それを私たちはしっかりと見守っていきたいと思っております。また、継続して委員をお務めになる方もいらっしゃるでしょうし、あるいは今回まで、今日までという方もいらっしゃると思いますが、それでも私たちはずっと見続けて、白井市の男女共同参画の発展を応援していくという立場に変わりはないと思いますので、皆様方、気を抜かないで、最後こそ大切でございますので、よろしくお願いいたします。

ということで、今日の議題ですけれども、ご案内がありましたように議題としては3つあります。4つですが、最後は「その他」ということです。

そうしましたら、特にこの中でも資料1に基づきまして、「（仮称）白井市男女共同参画計画策定に係るアンケート調査結果報告」と、それから、今年1月26日にワークショップが行われましたので、それがメインの議題となりますので、これについて皆様方からのご意見やご感想をいただきたいと思います。とにかく時間が限られておりますので、3時半まででございますので、スムーズに進めさせていただけるようにご協力をよろしくお願いいたします。

（１）（仮称）白井市男女共同参画計画策定に係るアンケート調査結果報告

それでは、議題1からでございます。このアンケート調査結果報告について、事務局のほうからご説明いただけますでしょうか。お願いいたします。

（１）（仮称）白井市男女共同参画計画策定に係るアンケート調査結果報告

○事務局 アンケートの結果報告に入る前に、資料1をお配りしておりますので、資料1をご覧くださいと思います。

資料1は、前回皆様に話し合っていたいただいた事項、また、その会議のあと、皆様からご意見いただいたことをどのように反映させたのかを書かせていただきました。概ね反映させていただいたところではあるのですけれども、1点、アンケートの中身ではないのですけれども、封筒について、回答するにあたって大きい封筒のほうがアンケート調査用紙を入れやすいということでご意見をいただいたところではあるのですけれども、予算の都合上、長3封筒しか購入できないということで、長3封筒を購入させていただいたところです。ただ、実際に私もアンケートを折ってみて封筒に入れてみたのですけれども、サイズは問題なく、ある程度ゆとりをもって返信できるようなサイズでしたので、問題なく返信は皆さんからいただけたのではないかと考えております。

また、その他にいただいた意見として、大きなものとして、今回の調査から中学生調査をさせていただいたのですけれども、その中で、中学生が今後成長していく時、また、現時点でも、中学生の交際年齢が若年化しているからというところで、デートDVといったこともアンケートに導入してみてもという意見をいただきまして、こちらは入れさせていただいたのですけれども、別途皆様に実際の調査入力フォームになったものを本日お配りしていますが、表現をかなりやわらかく書かせていただいております。理由としましては、やはり中学生が回答するにあたって、あまり直接的な表現を書いてしまうと、心理的な負担になってしまうのではないかとということを教育委員会の皆様や校長先生の皆様から事務局のほうにご意見をいただきまして、やや柔らかい表現で中学生には調査しようということになりましたので、直接的な表現は避けている部分もございます。

私からの説明は以上となります。詳しい反映結果については、後ほどお時間がある時に

ご覧いただければと思います。失礼いたします。

では、詳細についてコンサルから説明していただきます。

○会長 では、よろしくお願いいたします。

○コンサル それでは、資料2をご覧ください。「(仮称)白井市男女共同参画計画策定に係るアンケート調査結果報告書」でございます。このたび、一般市民を対象とした「住民意識調査」、市内の企業に在勤している方を対象とした「市内在勤者調査」、また市内の中学校に在籍している中学2年生を対象とした「中学生調査」、これら3つの調査結果の取りまとめを行いまして、「白井市男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書」を作成しております。

表紙をめくっていただきますと目次がございますが、ご覧いただくと分かるとおり、全体を通して見ると200ページを超える膨大な資料となっております。時間の都合もございますので、今回は抜粋をした資料をご用意していただいております。この報告書は全ての結果を性・年代別も含めて掲載しているものになりますので、そちらについては今後ご提示をする機会があるというところで、今回は抜粋版でご説明させていただきます。

1ページから2ページにかけては調査の目的、調査概要、報告書の見方が載っております。「2 調査概要」をご覧ください。今回はご説明のとおり3種類の調査を実施しておりますが、有効回収率をご覧くださいと、住民意識調査が47.5%、市内在勤者調査が46.0%、中学生調査が81.1%となっております。参考までに、10年前に実施した平成26年度調査については、住民意識調査が44.9%、市内在勤者調査が34.6%、中学生調査は今回初めて実施するものですので、いずれも前回に比べると調査結果の回収率については増加というところでございました。

3ページをご覧ください。ここからが調査結果の報告になります。「第2章 調査結果のまとめ」では、今回の調査結果を基に、主要な結果、また特徴的な結果を項目ごとに取りまとめたものになります。

今回は時間の都合上、こちらを基にご説明させていただきますが、めくっていただいて7ページをご覧くださいと、「第3章 住民意識調査の結果・分析」とございますが、これ以降のページに、今回、第2章で言及させていただきましたグラフを抜粋して載せさせていただきますので、こちらのほうもよろしければ併せてご覧いただければと思います。

ページを戻っていただきまして、また3ページの第2章からご説明いたします。こちらについては、住民意識調査、市内在勤者調査、中学生調査、それぞれを合わせてのまとめという形になっております。

上から、「家庭生活について」ということで、今回の調査で分かった内容といたしまして、家庭における男女の役割分担については、市民調査、市内在勤者調査共に、理想は

「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高かったのですが、現実では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が最も高く、理想と現実のギャップが依然として大きいという傾向が見られております。

続きまして、「仕事について」は、1日に家庭内の家事（育児・介護を含む）の役割をどれくらい担っているかについては、市民調査、市内在勤者調査共に、平日と休日に関わらず、男性に比べ女性で家事の負担が多くなっております。一方で、平日の男性については、前回、平成26年度の調査では「していない、ほとんどしていない」が最も高かったのですが、今回の調査では減少しておりまして、少なからず男性の家事等への参加が進んでいるという状況が少し見られたところでございます。また、点3つ目ですが、将来の昇進は、市民調査では女性は男性に比べて「昇進したくない」が高くなっておりました。また、将来的にはどのような職層で働きたいかについても、市内在勤者調査では、女性は男性に比べると「管理職（管理職手当がある者）」の割合が低くなっており、管理職になりたくないという理由については、「管理職になると、責任が重くなる」、「現在の地位が自分に適している」という回答が最もそれぞれ高くなっておりまして、女性の就労参加の状況やキャリア選択における制約、また課題があるということが見受けられております。

続きまして、「職場について」でございます。1つ目、育児・介護をする立場になったら育児・介護休業を取得したいかについては、市内在勤者調査では「取得したいと思う」が最も高い。また反対に、「取得しない」と答えた方の理由については、「職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかる」が最も高くなっています。また、家事への関わりが少ない男性が、より関わることをするために必要なことについては、市内在勤者調査では「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」が最も高く、また、「男性自身の意識を高めること」、「仕事中心という社会全体のしくみを改めること」となっております。いずれにしても、育児や介護休業を希望する割合は高いものの、取得しない理由としては、同僚への迷惑や忙しさによる取得の難しさが挙がっており、職場全体の意識改革、また制度の実効性の向上などが求められていると考えます。

続きまして、「ワーク・ライフ・バランスについて」です。生活の中におけるワーク・ライフ・バランスの仕事・家事・プライベート、それぞれの優先度については、理想とするものは「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高かったものの、現実では市民調査でも12.1%、市内在勤者調査でも14.3%と大きく乖離をしています。また、ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思うかについては、市民調査、市内在勤者調査共に全体では「ややとれている」が最も高いものの、特定の性・年代によっては「あまりとれていない」が最も高いものもございます。うまくとれていない理由については、市民調査、市内在勤者調査共に全体で「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかるなどの理由で、時間がないから」が最も高くなっており、ワーク・ライフ・バランスを保ちたいという希望は高いものの、仕事が忙しく、プライベートの時間が足りないという現状

が見られます。

続きまして、「男女共同参画に関する意識について」です。男女の平等感について、市民調査では〈職場〉〈社会通念〉〈政治の場〉〈全体〉において、男性優遇だと感じる割合がいずれも半数以上と高くなっています。また、男女共同参画に関する言葉、単語の認知度については、市民調査では〈リプロダクティブ・ヘルス/ライツ〉〈ポジティブ・アクション〉〈アンコンシャス・バイアス〉〈デートDV〉の単語で「知らない」が半数以上となっております。また、年代が上がるにつれて「知らない」の割合が高くなる単語も多いというところがございます。中学生調査では〈男女共同参画社会〉〈ワーク・ライフ・バランス〉〈アンコンシャス・バイアス〉で「知らない」がいずれも3割以上という結果でございます。また、アンコンシャス・バイアスの経験について、中学生調査では「ときどき言われる」という方が37.7%、「よく言われる」も9%ございまして、どんなことについて言われたかについては、「言葉づかい」に関することが最も多く、次いで「座り方や歩き方」に関すること、「着ている服や髪型、身だしなみ」についてという順番になっています。一部の用語や概念の認知度が低く、また特にポジティブ・アクション、アンコンシャス・バイアスのような重要なトピックも浸透していないという現状がありますので、意識啓発に向けた取組がより一層必要であると感じております。

続いて、「ハラスメント・DVについて」でございます。配偶者や恋人等パートナーからのDVの現状について、市民調査では「したことがある」、「されたことがある」、また、「したことも、されたことも両方ある」経験のある方はいずれも1割前後となっております。そのことについて「どこ（だれ）にも相談しなかった」が半数以上となっております。DV等の被害の相談率は低くなっております。被害者支援体制の把握、被害者支援の強化、また、相談しやすい環境づくりが必要であると考えます。

カテゴリを1つ飛ばさせていただきまして、「子育てや小中学校での教育について」でございます。学校教育の中で男女平等の意識を深めるために特に大切だと思うことについては、市民意識調査では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が最も高くなっています。また、中学生調査において、体や心について学んでいきたいと思うことについては、「特に知りたいことはない」が最も高く、その次に「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」、「思春期の心理について」となっております。特に男性は、女性に比べて「特に知りたいことはない」と答える方が高くなっております。ジェンダー平等教育の重要性の周知、また、さらなる推進を図っていく必要があると考えます。

続いて、「介護について」です。介護が女性の役割になりがちなことにどう思うかについては、市民調査では男女共に「男性も積極的に取り組むほうがよい」が最も高く、特に女性でその割合が高くなっております。また、前回の平成26年度の調査と比較しますと、「男性も積極的に取り組むほうがよい」が6.2%高くなっております。「男性も積極的

に介護に取り組むべき」という考えは広がっておりますが、まだ女性への負担が大きいという現状も見られるといったところでございます。

続きまして、「地域活動や防災について」でございます。点の2つ目、地域活動に女性がリーダーとして参画することについて、市民調査では男女共に「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高くなっております。また、女性は男性に比べて「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が高くなっており、女性も積極的に参画するべきという意識は高いものの、現実的なハードルを感じている人も多く、制度的なサポートなどが必要であると考えられます。

最後に、「白井市への要望について」、それぞれ市民調査、市内在勤者調査、中学生調査における男女共同参画を進めるための要望というところで書かせていただいております。

駆け足ではございましたが、今回のアンケート調査の概要ということで結果説明をさせていただきました。いったん、以上でございます。

○会長 どうもありがとうございました。今ご説明いただきましたのが全体のこの調査結果の概要でございました。ここには書いてありませんでしたけれども、この報告書にはこのアンケート調査のデータだけでございましたけれども、それについて分析、それから理由、分析ではこういうふうに見られる、思われるというようなことも追加しておっしゃっていただきましたので、非常に分かりやすく、また、私たちもそれを奇異には一つも思わなくて、なるほどそうだというふうに理解はできたところでございます。

さて、そこで皆様方のご感想でもよろしいですし、また、ご意見などをここで賜りたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。お読みになって来ていただいていると思いますので、大きなこと、3ページから6ページまでの、ここは概要でございますけれども、実はこの調査結果には概要を載せるのが普通でございまして、この結果報告書でもそうとなっておりますが、ここが一番大切なことでございますので、皆様方のご意見がありましたら、それをどのように反映するかということもここで検討して、そして追加でここに書き込む、あるいは、これは要らないということがあったらそれもおっしゃっていただきたいと思います。どなたからでも結構でございますので、ご意見を賜ればと思います。いかがでございましょうか。どうぞ。

○●●委員 よろしく願いいたします。この結果をまとめていただきまして、本当に素晴らしいなと私は思いました。この膨大なものを分かりやすくまとめていただきまして、ご足労に感謝いたします。

読ませていただきまして1つ驚いたのが、一番上の「家庭生活について」ですが、3行目に、現実では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が市民 37.5%、市内在勤者 53.0%ということで、なぜ市民がこんなに低いのかと思ったのです。ほかのも大体5割いっていると思うのですけれども、どうして市民がこれだけ低いのか、その根拠は分かりませんか。理由等については聞いていないですね。

○事務局 はい。

○●●委員 どういう気持ちでこの「家事全般は主として女性がする」に丸を付けたのかというところが知りたいと思いました。以上です。

○会長 ありがとうございます。ただ、どうしても、これはなぜかというような二次的な質問項目がないので、類推するしかありませんけれども、男女共に働いて、そして家事全般は主として女性がするというのには、女性のほうが低いです。というのは、女性はやはり重荷であると、大変だからというような、実際にやっている人からすれば本当に大変だという思いがあるからだろうというふうに類推はできるかと思います。男性はあまりやっていないので、女性にやってもらいたいという希望もあるのかもしれませんが、半数くらいはこれに同意をしているという結果でございます。類推しかできませんけれども。コンサル、いかがでございますか。

○コンサル ありがとうございます。この差が出ている理由の1つ、これも類推という形ですけれども、恐らく一般市民調査の対象が高齢者の方も含んでいますので、実際にもう仕事をされていない方も対象としては幅広く、一方、市内在勤者は当然働いている方ですので、そこが差として出てきているのかもしれないです。いずれにしろ、今回、調査結果として見ていただきたいのは、まだ家事全般は主として女性がすると答えた方がいずれもこのくらいいますよということが、今後、市がどうしていくかについて議論していくべき、その結果なのではないかというところで、差が出ているところについてはもう既にリタイアされた方も答えていただいているからということかもしれないです。

○会長 それでは、お願いいたします。

○●●委員 もしかすると、話を聞くと、市内在勤者なので通勤時間が短いから、要は家事をやれる可能性が男性側もあるから、そういうことかと私は今推測しました。だから、アンケートが終わった時点でこんなことを言うのも何ですけれども、あとから気が付いて申し訳ないのですが、最初に、この調査をするにあたって、結婚しているか、していないかというところがあると、もう少し分析のクロスができたのではないかとあって、少し残念に思っています。次からはそういうことができるといいと思います。している人としていない人だと、やはり1人で暮らしていれば当然家事はやらないといけない話になってくるし、聞き方が、一人暮らしの人はこれまでの家庭状況に最も近いものという形の聞き方をしているのですけれども、結婚しているかしていないかでまず捉え方が違ってくるのではないかとあって、そうすると、そこからまたクロスすると結果も少し違って見えてきたのではないかと思います。

○会長 コンサル、お願いいたします。

○コンサル ありがとうございます。市民意識調査については、「あなたは現在結婚していますか」という質問項目がありましたので、そちらの結果ともクロス集計を、また個別に分析をするということは可能ですので、ご意見をいただいたとおり、そういったところ

も含めて今後より分析を深めていきたいというところは事務局さんとも進めていければと思っております。ありがとうございます。

○会長 いいご指摘でございました。ありがとうございました。では、婚姻状態と意識と、どうなのかというのをもう一度分析をお願いいたします。

他に何かありますか。

○事務局 事務局のほうから補足させていただきます。まず一番初めに、年齢の部分についてですけれども、皆さんにお配りしている資料には入れていないのですけれども、先ほどコンサルから説明がありましたように、市民調査と市内在勤者の結果では年齢が分かれているところでして、市民調査のほうは回答が多かった層としては 70 歳以上ということで、先ほど解説にありましたように、リタイアされた方に多く回答していただいたというところでございます。一方、市内在勤者のほうを見てみると、男性女性共に 40 歳代ということで、回答していただいた年齢層の中心としても 70 歳代と 40 歳代ということでかなり分かれていますので、このように結果が分かれていますのではないかと推測されるというのが 1 点目です。

2 つ目の婚姻状況についてですけれども、今回の調査では結婚している、結婚していないという単なる 2 択ではなくて、今回の調査から、結婚していない方に関しては、単に結婚していないだけではなく、そこを 2 分化しまして、現在未婚の方と死別の方に分けました。理由としましては、男女共同参画ということで、女性の自立という観点で考えると、やはり未婚の方と死別の方では分析の仕方が異なってくるのではないかとということで、未婚の方という区分も入れさせていただいたところです。以上です。

○会長 ありがとうございます。では、そちらで手をお挙げになりました、●●委員から。

○●●委員 調査結果の「仕事について」で 1 つ、昇進について、女性は男性に比べて昇進したくない割合が大きくて 31.7%になっている。なおかつ、したくない理由が、「責任が重くなるから」というのがあるのですけれども、これは私が知っている総務省や厚生労働省の調査の結果とほぼよく似ているなというところで、恐らく近似しているのだらうと思っています。翻って、やはりこういうことが男女の賃金格差、給与格差にかなりつながっているのだらうということは強く推測されるところであります。前回の会議でも指摘があった、少し議論があったところだと思うのですけれども、そこに絡むところだと思っていて、非常に重要だと思っております。

では、責任を軽くすればいいのかとか、そういうことでは多分駄目であって、どうやって管理職に上ってもらうのかということと、もしくは、より管理職にきちんと優遇を付けるのか、自らがなりたいと思えるのかとか、両方からのアプローチが必要になることだと思います。現状、管理職だからといって、責任だけが重いという状況もたくさんありますし、逆にお金だけが高いという状況もあるわけです。そういった職に就いているからこそきちんと生活できる賃金がもらえるという状況が、今というか、ほぼ世界共通の状況だ

と私は見えています。この間、ベトナムから帰ってきて1週間なのですけれども、いろいろな所で仕事をしながらそういった話をする機会などもあるので、地域だけではなくて国としてのそういった傾向がこの市にも見られているというのが私は非常に興味深いところだと思っております。以上です。

○会長 鋭いご指摘、ありがとうございます。結果の理由の中にそういったことももう少し盛り込むことができればと思いますので、また検討しましょう。ありがとうございます。

では、●●委員、お願いいたします。

○●●委員 話が少し戻るかもしれないのですが、未婚等というところ、パートナーが亡くなったというのもあるかもしれないのですが、そもそも同棲しているのか一人暮らしなのか、同棲と言っても、私の場合がそうなのですけれども、母親と祖母と私の3人で生活して、家庭生活の家事を誰がやるのかというところのアンケートを最初のほうにしたほうがよいのではと、今の話を聞いて思いました。

○会長 ありがとうございます。ただ、もう終わってしまいましたので、次にまた……

○●●委員 次にやるとしたらということ。

○会長 本当に家族の形も変わってきておりますので、そういうことも次のアンケートに生かしていくようなことにいたしましょうか。ありがとうございます。

ほかにはいかがでございましょうか。次々にいっていますけれども、では、この職場のこともそうですが、次に、ワーク・ライフ・バランスとか、それから男女共同参画に関する意識ということについて、4ページですが、ここについてはいかがでございましょうか。あるいは、最後まででも構いませんけれども。本当によくまとめていただきましたので、私どもとしては非常にありがたいと思っていますところでございます。

○●●委員 ワーク・ライフ・バランスについてですけれども、私の状況が非常に特殊な事例なのですけれども、正直、この3カ月間はほぼ私のワーク・ライフ・バランスはない状態でした。1月から2月にかけて、1月の正月期間を省いたら恐らくこの3カ月間で家にいたのは多分20日前後なのです。エッセンシャルワーカーとして全国各地に飛び回っているということもあって、かなりきつい状態なのです。そういった人たちの数は、恐らく少なくないと思っています。私のような特殊な仕事ではなくても、毎日毎日出なければいけない、土日休みもない。私も土日休みも返上して、2月は公休が4日しかなかったのです。いろいろな全国各地を回らせてもらって、ベトナムから帰ってきて1日半休んで、所沢でまた3日仕事をして、昨日所沢から帰ってきて、またあさってから津軽に4日仕事をするような、いろいろ飛び回っている人たちもいるということで、そういう人たちにワーク・ライフ・バランスがどうかと言っても、正直響かないし、そこに男女の家事の分担をどうと言っても、やはり響かないのです。

実際に、私の家では妻がほぼ9割5分は担っていて、今日とか明日とか家にいる時だけ

しかできないので、なかなか難しい問題ではあるのですが、このワーク・ライフ・バランスというのは職業に左右されやすい。なおかつ、職制にも左右されやすいものでもあると思うので、難しいのですが、どういう職業の人がどういう回答をするのか、そこまで分析していただければと思います。1次産業者なのか、2次産業者なのか、サービスを提供する第3次なのか、それが今はごちゃごちゃになっているので、正直、机できれいな仕事をしている3次産業者から見た意見が非常に多く、就業者も多いですから、そこが非常に偏っているのではないかと考えております。以上です。

○会長 ありがとうございます。今回、この分析の中でできるかどうかというのはまたありますけれども、確かにそういうことを考えていかなければいけませんし、ただ、本当に●●委員のように、そういうお仕事をしていらっしゃる方も、これから多様にはなってくるでしょうが、それでも意識として持っているということは大切ではあります。そういうことも含めて、また次のプランに生かしていくということになるかと思います。貴重なご意見、ありがとうございます。

では、事務局からもしございましたら、どうぞ。

○事務局 ありがとうございます。お配りしているアンケートの15ページのところで、主なお仕事はどれですかという質問があったり、あとは、1日どれくらい働いていますかという質問は設定されているので、今のご意見にうまく答えられるクロス集計になるかどうか心配ではあるのですが、お仕事の種類とワーク・ライフ・バランスでクロス集計をかけてみるというのは1つかと思いました。ありがとうございます。

○会長 では、事務局からのご意見もありましたし、大変かもしれませんが、もう少しできる限りのことをやっていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

それでは、次にまいりましょうか。資料1と2が終わりましたので、資料3、4、5と次々に見ていきたいと思います。議題（2）でございます。資料3に基づきまして、「ワークショップ結果報告」です。

その前に、●●委員、最後になりましたけれども、ご意見がございましたらどうぞお聞かせください。

○●●委員 先ほどは大変失礼しました。膨大な量のアンケートを、本当にありがとうございます。5年前に同じようなアンケートをやったと思いますので、その5年間の間の、どれくらい意識が変化しているかというものが出てくるといいのではということと、それから、大事なのは、このアンケート結果を受けてこれからどう対策というか、どうしていくのかということに今度は集中していくようにすると、このアンケートが生きてくと思います。一番大事なのは、これからどうするかということなのではないかと強く感じました。ありがとうございます。

○会長 どうもありがとうございました。本当に、今、●●委員がおっしゃるとおりでございまして、これを次のプランに生かしていくということになるかと思いますので、皆様

方もどうぞいろいろなご意見を、今日はここでは言えなかったけれどもという方もおありかもしれませんので、あとでまた、いいと思いますので、事務局のほうにご意見などをおっしゃっていただけたらと思います。そうするとまた分析結果がさらに身近なものになる。考えなければいけないことが出てくるかと思いますので、よろしくお願いいたします。私が勝手に言いましたけれども、事務局、それでよろしいですね。よろしくお願いいたします。

(2) ワークショップ結果報告

それでは、議題(2)「ワークショップ結果報告」でございますが、これを事務局からご説明いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、資料3をご覧ください。「白井市男女共同参画 地域懇談会(ワークショップ)実施報告書」についてご説明をさせていただきます。資料につきましては、本日差し替えの資料をお配りいただいているということでよろしいですか。そちらのほうをご確認いただければと思います。

白井市男女共同参画に関するワークショップについては、前回の男女共同参画推進会議でも実施について予告させていただいていたとおり、今年の1月26日の日曜日に実施いたしました。当日は見学の方を含めまして11名の参加がございました。本日の委員様の中にもご参加いただいた方がいらっしゃると聞いております。改めて、ありがとうございました。

このワークショップの目的については、白井市が目指す「性別に関係なく、誰もが自分らしく輝ける社会」の実現に向けて、「日頃から思っていること」、また「取り組んでいること」など、男女共同参画について話し合っていただく場ということで、最終的には次期計画の策定に向けた課題の共有、また、施策に取り入れるべきアイデアなどを伺うことを目的に実施したものでございます。

プログラムの内容につきましては、1ページをご覧ください。はじめに挨拶や趣旨説明を実施したあと、まずは課題の共有ということで、テーマを「白井市が目指す『性別に関係なく、誰もが自分らしく輝ける社会』の実現に向けた課題は？」と題しまして、幅広く男女共同参画についての課題を共有していただきました。

2ページ目に移っていただきまして、(3)、出た課題に対して、「今後取り組んでいくべきだと思うこと」や、「自分たち・地域でできそうなこと、取り組めそうなこと」といった視点で解決アイデアを出し合っていただき、模造紙にまとめていただいたところでございます。当日は2グループに分かれてワークショップを実施いたしました。

結果については、3ページ目以降をご覧ください。簡単に少しご説明させていただきますと、Aグループ、Bグループと分かれて実施していただいたのですが、Aグループについては、非常に多岐にわたる課題を挙げていただきました。カテゴリを班の中で分けていただいたものもあれば、事務局のほうである程度整理をしたものもございますけれども、

課題のカテゴリと、その課題・問題について表形式で取りまとめています。

地域環境については、例えば男性用トイレのおむつ替えスペース不足など、設備の整備が不十分であるといった課題や、家庭においては、家事や農作業の負担が女性に偏りがちであることや、「男は外、女は内」というような伝統的な役割意識がまだ残っているという点が挙げられました。職場環境においては、男女間の賃金格差や業種による性別の区別が依然としてあることや、育休取得、また女性の就業機会の少なさが障壁となっているところ。また、「結婚しないと一人前ではない」という固定観念がまだあるといった意見もありました。1つ飛ばしまして、多様性のカテゴリについては、選択的夫婦別姓や同性婚の法整備が未対応であることや、LGBTQ+の方々が職業選択に制限を感じている状況がある。また、カミングアウトがしやすい環境や固定化された男女観の見直しが必要であるといった意見が挙げられました。

ページをめくっていただいて、解決アイデアをそれぞれ考えていただいております。まず情報提供の面では、市民に向けた情報開示を積極的に行う。また、教育の面では、出前授業や講演を通じて、小・中・高校で発信する機会を設けること。また、若い世代への発信方法を工夫し、枠にとらわれない柔軟な教育を提供すること。当事者の話を聞く機会をつくり、多様性の理解を深める教育の実施などが挙げられました。職場環境では、育児休業取得のルール化や義務化の推進。防犯・生活環境では、防犯灯の増設や、防災倉庫の見直し、防災設備のレベルを全国基準で向上させることなどが挙げられました。また、制度や多様性に関することについては、SNSでの誹謗中傷を罪として明確化することや、セカンドレイプの防止、またカミングアウトをしやすい環境を整えること、同性婚や選択的夫婦別姓の制度化を早急に進める、白井市独自のパートナーシップ・ファミリーシップ制度についての意見もございました。

ページをめくっていただきまして、模造紙の写真の次に、Bグループの内容でございます。こちらにも非常に多くのご意見を出していただきました。はじめに、課題については、職場において、男女間における賃金格差や、共働き世帯が増加しているにもかかわらず、女性の家事時間が男性より長いこと。また、女性が多い職業が依然としてあるということや、女性管理職が少ないといったことが挙げられております。地域社会においては、消防団や自治会などで、女性が形式的な扱いを受けているということがあること、広告の過度な露出度の高さに対する不快感なども挙げられておりました。性別による優遇や役割分担の固定観念に関することについては、例えば飲み会やデート代に差があるといったことや、レディースセットがあるということなど、性別による料金差や慣習が存在すること。男性視点では女性が「弱い存在」と位置付けられているという意識があるということが挙げられています。政治の対応については、高齢男性の政治的考え方に共感しづらいというご意見があったこと。最後、家庭においては、介護や子育て支援が不足しているということや、親世代の影響で性別による固定観念が刷り込まれる傾向があること。また、女性は働いて

いないことに負い目を感じているのではという意見や、そのことが家事負担の偏りにつながっている可能性も指摘されておりました。

ページをめくっていただきまして、解決アイデアについては、まず、職場環境においては、正社員として短時間労働を認める制度の導入や、男女間の賃金格差を解消し、特に女性の割合が多い職業の賃金を引き上げることで男性の参入を促進することなどが挙げられております。1つ飛ばしまして、3つ目の男女平等については、飲む人・飲まない人で料金を分けるなど、公平な料金設定を検討すること。また、4つ目の政治については、若い世代の政治参加に関することや、女性議員をただ増やすのではなく、実力で評価すべきではという意見がございました。6つ目の家庭においては、家事の分担をより推進していくといったことが挙げられておりました。

これらの意見については、出していただいた意見を白井市の現状、課題、またアンケート調査で見られた結果などと照らし合わせまして、今後の計画策定に向けて取り組むべきことは何か、推進していくべきことは何かというところを、また次年度以降も引き続き分析を進めてまいりたいと考えております。

いったん、ワークショップに関するご説明は以上とさせていただきます。

○事務局 私のほうから補足の説明をいたします。ワークショップの参加者の世代については、40代から70代になります。周知方法としましては、ホームページ、LINE、広報しろい、ポスターなどにて周知しております。また、人権擁護員の方や無作為抽出公募委員候補者の方にもご案内をしておりますし、若い世代の方にも参加していただきたかったために、教育委員会を通じて小中学校の保護者の方にもLINEにて通知をしております。ワークショップにおいて、今回実施しましたアンケート調査においても、家事を担う割合や子育て支援の充実などが共通の課題としてありましたが、ワークショップにおいては、やはり先ほども出ましたように、交通機関や防災、白井市独自の課題など、より詳細な課題について知ることができましたので、今後の計画の策定の資料の1つとして考えていきたいと思っております。以上です。

○会長 ありがとうございます。では、今のご説明に対しまして、何か皆様方の中でご質問、あるいはご意見がございましたら、どうぞご発言くださいませ。

すみません。この報告書ですけれども、最初に、この報告書の体裁ですけれども、報告書で、いきなり「日程等」、それから「進行」とありますけれども、これは最初に何のためにという目的を書くことが必要だろうと思いますので、その目的をまずは入れていただきたいということをお願いしたいと思います。そうすると、当然ながら最後に結論があります。それは口頭でのご説明の中で言ってくださいましたので、それを文字化していただければ十分かと思っております。

○事務局 承知いたしました。

○会長 それと、このディスカッションをしながら付箋紙を作っていらっしゃる、この時

間というのは、この2時間の中でどれくらいですか。

○事務局 ありがとうございます。冒頭、ワークショップ全体のご説明と併せて、白井市と、また日本を取り巻く男女共同参画に関する統計などを用いたり、また、アンケート結果のご説明を速報版で説明しながら、最初の30分は現状・課題について皆さんに共有をさせていただいた時間がありました。そのあと、ワークとして、はじめに課題出しについてまた40分、そのあとの意見のまとめについてもまた40分程度で80分ほど、合計2時間実施したのですけれども、実際は少し時間オーバーしてしまったのですが、大体当初40分、40分くらいでプログラムを組ませていただいて、課題出しとアイデア出しということでやらせていただいたところです。

○会長 もう1つ伺いたいのは、AグループとBグループの2つに分けていますね。

すみません、マイクのバッテリーがなくなってしまいました。マイクがないと●●委員に聞こえないですね。ありがとうございます。お借りました。

○事務局 大丈夫ですか。すみません。

○会長 そうすると、この中で発言をなさるディスカッションが40分と、まとめが40分で、まとめはともかくとして、最初にAグループとBグループに分かれて5人や6人くらいですが、録音はとっていらっしゃいましたか。なしですか。ディスカッションもないですか。もし、録音をとっていらしたら、テキストマイニングすれば面白い結果が出てくるだろうなと思いました。

○事務局 各テーブルに録音機を置いてということはさせていただいてなくて、実際、それぞれでどういってお話が繰り広げられた上でそういう模造紙に出していただいたかというのは、今回は事務局のほうで把握はしていないところです。

○会長 分かりました。皆様方の中で、いかがですか。●●委員はどうですか。

○●●委員 このワークショップのこういう取組というのは初めてですか。

○事務局 男女共同参画としてですか。それとも、市として計画策定にあたってということですか。

○●●委員 この会議というか、男女共同参画としては、初めての試みだったのでしょうか。

○事務局 今回初めてです。10年前は行ってなくて、新たに行ったというところです。

○●●委員 取組はとても素晴らしいと思いました。やはり市民の方の普段考えていることや、忌憚のない意見を出し合って、お互いにブレインストーミングというか、本当に自由に、相手の方々の意見を否定することなく自由に出し合って、そこからその出し合ったものを再構成していくというのは、何かをつくりあげていく時によく使う手法でもあるので、KJ法とか、そういうものなのかなと思うのですけれども、こういうところから、いろいろな気付かなかったところが出てくるというのは、とてもいいなと思います。こういう取組がもっと増えて、もっともっと気軽にいろいろなことが言い合えるようなカフェの

ような、そういうような形にしても、さらにもっと盛り上がっていくのではないかと感じました。

○会長 ありがとうございます。

では、どうぞ。お願いいたします。マイクを使っただけですか。

○●●委員 私はこれに参加したのですけれども、集まりの人数が少なかったのです。私はちょうどお友達を誘った人が同じテーブルにいたので、そこへ座って、同じ班でやっていたのですけれども、男女共同参画で人を集めるというのはとても難しいことだと感じました。これが市政に反映させることができるというふうに認識ができれば、もう少し広い範囲の人が来てくれたのではないかと思います次第です。なので、やはり人の集め方、私もいつも県のほうで事業をやらせていただいているのですけれども、男女共同参画という言葉自体も、アンケートを見ても、そんなに理解していただけていない中で、それについて話しましょうと言われても、やはり人の心に引っかかってこないのではないかと思います。初めての試みで、いろいろな人に声を掛けて、わりに活発な意見の場ができて、来た人はすごくいろいろなこととお話して、まとめもいろいろ、ほかのグループはこんなことを話したのだなというのがよく分かるいい会だったのですけれども、何せ人数が少なかったのがとても残念です。だから、やはり人に引っかかって、行ってみようという気持ちにさせられる、何かアプローチが必要だと思いました。以上です。

○会長 今後に生かせるご意見でございました。

○●●委員 先ほどのアンケート調査にあったのですけれども、中学生調査をやったということと、今回、40代から70代の方がこのワークショップに集まれたということで、いろいろ考えてみて、この男女共同参画の意識をしていくというのはとても時間がかかるのではないかと私はすごく思っています。先ほどの中学生調査で、今、学校教育の中で男女共同参画というところにどのように学校教育が入っていつているのかということにとっても興味がありまして、小中高の段階、若い世代からそういう教育をしていけると、これからの社会をつくっていく若者たちがこの男女共同参画を意識した社会に向けていろいろな動きを出してくれるのではないかと私は感じました。

○会長 ありがとうございます。ただ、男女共同参画基本法ができてからもう四半世紀です。2000年からですから、25年たっても、これでも少しは進んだほうではありますけれども、本当に人の意識を変えていく、きちんと人権意識も含めて、男女、あるいは多様な人たちが、それこそ輝いて生きていけるような社会にするというのは、地道に力を注いでいかないといけないということが改めて思われます。こういう機会が、今回は来年度からの基本計画を作るために必要なものとしてワークショップが行われましたし、アンケート調査も行われましたけれども、さらにその間にもまたいろいろな取組をしていただきたいと、私たちみんな思うところだろうなという気がいたしました。本当に皆様方のご意見もよく出していただきましたし、さらにアピールしていただきたいと思いますし、今、

広報がとおっしゃいましたけれども、これからも私たちも少しずつ広報の役割も、どんな形かそれぞれありますけれども、担っていったらいいなと思った次第です。ありがとうございました。

（３）来年度の策定スケジュール説明

それでは、次にまいりましょうか。次は次年度のことです。ということで、事務局からのご説明を聞いておきましょう。

では、（３）「来年度の計画策定スケジュール説明」をご説明いただけますでしょうか。

○事務局 こちらは私のほうからご説明させていただきます。まず、資料４「（仮称）白井市男女共同参画計画の策定体制について」の裏面をご覧ください。当計画の策定にあたっては、内部の推進体制として関係部課長からなる男女共同参画推進委員会、及び、その下部組織となる関係課担当者からなる男女共同参画推進研究会、外部の推進体制として学識者・関係団体代表及び公募委員からなる男女共同参画推進会議を開催し、検討を行います。その外部体制のところが皆様の部分となります。

なお、今回お集まりいただいた皆様におきましては、今年度で任期が終了となりますので、このメンバーでの男女共同参画推進会議へのご出席も最後となりますが、今後の策定計画にあたって、皆様からのご意見や情報などを広く求め、その結果を反映させることにより、より良い計画を目指したいと考えておりますので、策定体制の中で言いますと、パブリックコメントの「パブコメ」の欄になるのですが、そちらを今後実施いたしますので、その際には委員の皆様にはご意見をいただけたらと存じております。

続きまして、策定のスケジュールになるのですが、資料５をご覧ください。こちらで皆様に関係するものとしては、下から４番目の「男女共同参画推進会議（審議会）」がスケジュールになるのですが、来年度に関しましては、計画策定に伴って会議の回数もより多くなっておりまして、１回目が８月で、４回開催します。また来年度も参加していただけたらと思うのですが、こういったスケジュールになりますので、ご周知いただけたらと思います。

最後になりましたが、委員の皆様にはご多忙の中、会議に出席いただき、たくさんのご意見をいただき、誠にありがとうございます。説明は以上となります。

○会長 どうもありがとうございました。私たちもこれをずっと見守っていきたいと思いますし、それから、パブコメがありますので、もう終了なさる方もいらっしゃるだろうと思いますし、継続の方もいらっしゃるだろうと思いますけれども、いずれにしても、ぜひ意見は私たちも出していったらいいなと思っておりますので、さらに協力してまいりましょう。では、ご説明、ありがとうございました。

（４）その他

以上で今日の議題は終了となります。最後に、（４）「その他」とございますけれども、

何か事務局のほうでございましたらお願いいたします。

○事務局 特にはございません。ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。分かりました。では、皆様方もご意見はよろしいですか。

○●●委員 最後に1つ。

○会長 どうぞ。

○●●委員 多分、男女共同に多少関わると思うのでこれも、私事で申し訳ないのですけれども、私の事例をお話させてください。4月からうちの第2子の息子が1年生になるのです。

○会長 おめでとうございます。

○●●委員 ありがとうございます。それで、1つここで、私と妻とでだいぶ前から対策をしていて、4月はほぼ私が全面的に休むのです。それも、保育園は卒園後、3月31日までしか預かってくれない。ということは、4月の平日から学校が始まるまでは、必ず片親が必要なのです。私は、その4月を休むために12月からいろいろな調整をしてきたのですけれども、会社からはやめてくれと言われたのです。私は自分の有休を4月に17日間使うことでその権利を勝ち取ったのですけれども、それもやめてくれと言われたのです。だから、「いい加減にしないと労基にぶち込むからな」と言って休んでいるのです。会社としては、私を1カ月間使えないことが非常にまずかったのです。声を掛ければすぐにどこにでも行って、どこでも作業して帰ってくれる人間が1カ月使えなくなると。たった1人欠けることかもしれないけれども、それでもやはり欠けてほしくなかったという実情があったわけです。しかも、私は人事ではなくて社長に言われて、社長に「いい加減にしろよ」と言ったのですから、私のキャリアとしても、結構、会社から目を付けられるのです。実は娘の時にもこれをやっているのです。

この中で職制の方もいらっしゃると思うのですけれども、そういうふうに、主力となる人間が1カ月間欠けることをきちんと調整できる職場に今なっていますか。そこをまず考えていただきたい。私の家庭は当然共働きですから、学童も始まります。ただ、この4月に関しては、慣熟期間なので、小学校も初めから5時間授業ではありません。入学してから1日目は1時間、2日目は2時間、3日目は3時間、給食が始まるのは翌週の月曜から。それでもその週は4時間で終わって午前中で帰ってくる。ということは、どちらかいないといけないわけなのです。そのための休みを今回私が取ったのです。それで会社ともけんかして、社長にもぶち切れて、労基に提出する書類も一応は用意していたのです。そのくらいやってはじめてできるのです。はじめて勝ち取れるのです。

市役所の中もそうですし、ほかの職場でもそういったことをやれますか、認められますか。私はできましたけれども、それがかなわない人間が多分たくさんいると思うのです。なので、特にコンサルの中でも1カ月休ませてくれと、できますか。

○コンサル 個人的なお話でよろしいでしょうか。

○●●委員 はい。

○コンサル 実は年末に長男が生まれまして、1カ月ほど育休を取りました。女性はやはり取りやすいなかで、男性での取得は女性に比べると少なかったです。委員さんの職場よりはだいぶ恵まれているとは当然思いますけれども、そういう制度はやはりまだまだこれからやっていかなければいけないのかなと。私の会社でも男性の育児休業が今までより取りやすくなってきたのですが、まだまだこれからだという感じもあります。個人的な話を含めてしまって申し訳ないのですが、職種によってはだいぶそういうものが制限されるところも、違いもだいぶあるというのは承知しております。当社としては、男女共同参画の計画に携わる上で、やはり変わっていかなければいけない中で、ようやく進んでいるのではないかというところです。

○会長 ありがとうございます。

○●●委員 もう1つ、私が休みを取った理由ですが、皆さん、今の話を聞いて、「奥さんは休めなかったの？」と思いませんでしたか。奥さんはどうしたのと思いませんでしたか。正直、思いますよね。そんな主力で働いている人がなぜ休まなければいけないのかと。うちの妻は正社員ではないのです。有期雇用なのです。労働基準法に基づいてお休みはもらえていますが、やはりそこで差があって、有期雇用なので、休むと自分の成績に響くわけです。なので、私は妻に働いてほしいのです。というか、妻自身のために、妻自身のお金を稼いで確保してもらうため。妻自身が自由にできるお金を稼ぐ道を閉ざしたくなかった。妻の職場から妻に目を付けられることを避けたかったのです。ある意味で守りたかったのです。だから、より雇用条件としては守られている私のほうが会社とけんかして休みを取った。そういう背景も多分にあります。

なので、実際にこうやって私が子育てをして、4月に休むのは2回目なのですが、かなり苦しい、厳しい現実があるということです。みんな言わないけれども、男女共同参画に身を置くのであればそういうことだけは知っておいてほしいというのはあります。以上です。

○会長 ありがとうございます。よくぞ、●●委員のような方がここの委員になってくださいました。こういうことを言わなくても済むような社会にならなければいけませんし、それは個人としても、男女、それから社会の体制としても、企業も、それぞれが考えていかなければいけないということが本当によく分かったと思います。それを実現させるために、また次のプランに生かしていく。こういうことの繰り返しで、もう少し時間がかかるのではないかという気がいたしますけれども、そのためにもしっかりと意見を出していくということにいたしましょう。

本当にここで皆様方のご意見をたくさんいただきましたし、貴重でございました。本当にありがとうございました。次にバトンタッチしてまいりましょう。どうもありがとうございました。では、マイクをお返しします。皆様方、本当に長い間ありがとうございました。

た。いいアンケートの調査もできましたし、結果報告もできました。皆様方のおかげです。ありがとうございました。では、失礼いたします。終わります。

○事務局 では、本日の会議は終了させていただきます。ありがとうございました。お疲れさまでした。